

# プログラミング I

*Report #4(再)*

提出日 : 2013年8月1日

所属 : 工学部情報工学科

学籍番号 : e135732J

氏名 : 前城 健太郎

1. 標準ライブラリ関数 `islower()`, `toupper()` を使い、下記の `trlowup` プログラムを書き換えて、新規に `trupper` プログラムを作成せよ。

### 1.1 `trlowup` プログラムの解析

#### 1.1.1 `trlowup` プログラムのソースコード全体

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 char trlowup(char);
5
6 int main(){
7     char c;
8
9     while( (c=getchar()) != EOF )
10        putchar(trlowup(c) );
11    return(0);
12 }
13
14 char trlowup( char c ){
15     if ( 'a' <= c && c <= 'z' )
16         return( c-'a'+'A' );
17     else
18         return( c );
19 }
```

- 1.1.2 出力結果 ※ "abcDEF"および "xyzXyYyZz"が `getchar()`関数で入力した値である。  
また,"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
abcDEF
ABCDEF
xyzXyYyZz
XYZXYZZZ
^C
```

#### 1.1.3 プログラムの解析

- 4行目で新たな関数 `trlowup()` のプロトタイプを宣言し、14-19行目においてその関数の定義をしている。
- 新たな関数の戻り値は `char` 型、引数も `char` 型となっている。
- 19行目によって、入力された文字の1文字を判断し、出力が EOF、つまり "Control+C" が入力されるまでプログラムが繰り返し実行されるようになっている。
- 14-19行目における定義から、`trlowup()` 関数による効果は「入力された値が小文字なら大文字、大文字ならそのまま出力する」とわかる。
- `islower()` 関数、`toupper()` 関数を使用するために、2行目で新たに `ctype.h` をインクルードしている。

## 1.2 islower()関数を使った trupper プログラム。

### 1.2.1 ソースコード全体

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 int main(){
5     char c;
6
7     while( (c = getchar()) != EOF ){ /*変数 c に入力された 1 文字を格納、EOF でなければ繰り返す*/
8         if ( islower(c) ) /*c の値が小文字であるかどうかを条件に分岐します*/
9             putchar( c - ('a' - 'A') ); /*真であれば大文字に変換して出力*/
10        else
11            putchar(c); /*偽であればそのまま出力*/
12        }
13    return(0);
14 }
```

1.2.2 出力結果 ※ "abcDEF"および "xyzXyYyZz","ldoeUGpigolA"が getchar()関数で入力した値である。また,"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
abcDEF
ABCDEF
xyzXyYyZz
XYZXYYYZZ
ldoeUGpigoIA
LDOEUGPIGOIA
^C
```

### 1.2.3 考察

- islower()関数によって入力された文字列に存在する小文字を大文字へ変換するプログラムを制作した。
- islower()関数の機能は「入力された値が英小文字であったとき真 (0 以外) の値を返し,英小文字でなければ 偽 (0) の値を返す」となっている。
- これは trlowup プログラムにおける trlowup()関数の " 'a' <= c && c <= 'z' "に当たる機能である。
- よって trlowup()関数ではなく islower()関数を用いて if 文を構成しプログラムを組んだ。

## 1.3 toupper()関数を使った trupper プログラム。

### 1.3.1 ソースコード全体

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 int main(){
5     char c;
6
7     while( (c = getchar()) != EOF ){ /*変数 c に入力された 1 文字を格納、EOF でなければ繰り返す*/
8         putchar(toupper(c));
9     }
10 }
```

1.3.2 出力結果 ※ "abcDEF"および "xyzXyYyZz","ldoeUGpigolA"が getchar()関数で入力した値である。また,"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
abcDEF
ABCDEF
xyzXyYyZz
XYZXYYYZZ
laghr1shoJGUG
LAGHRLSHOJGUG
^C
```

### 1.3.3 考察

- toupper()関数によって、入力された文字列に存在する小文字を大文字へ変換するプログラムを制作した。
- toupper()関数の機能は「入力された英小文字を英大文字に変換して返し、それ以外の文字はそのまま値を返す」となっている。
- これは、trlowup プログラムにおける trlowup()関数と同じ機能である。
- よって、trlowup()関数ではなく toupper()関数を用いてプログラムを組んだ。

2. trupper プログラムを書き換えて、rot13 暗号化・復号プログラムを作成せよ。

## 2.1 rot13 暗号化プログラム

### 2.1.1 ソースコード全体

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 char encode(char);
5
6 int main(){
7
8     char c;
9     printf("--encryption?--\n");
10    while((c = getchar())!= EOF)
11        putchar(encode(c));
12    return(0);
13 }
14
15
16 char encode(char rot){
17
18     if ('A' <= rot && rot <= 'M' || 'a' <= rot && rot <= 'm')
19         return(rot + 13);
20     else if('N' <= rot && rot <= 'Z' || 'n' <= rot && rot <= 'z')
21         return(rot - 13);
22     else
23         return( rot );
24 }
```

### 2.1.2 出力結果 ※ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz および

ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ、In fact I'm a girl が、getchar()関数で入力した値である。また、"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
--encryption?--
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
nopqrstuvwxyzabcdefghijklm
ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ
NOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLM
In fact I'm a girl
Va snpg V'z n tvey
^C
```

### 2.1.3 考察

- 1.1 項を参考にして、trupper プログラムを書き換えて rot13 暗号化プログラムを制作した。
- 入力されたアルファベットを昇順で 13 文字ずらすような出力を得ることができる。
- 'a'と 'z'、'A'と 'Z'は続いているとみなしている。

## 2.2 rot13 複合プログラム

### 2.2.1 ソースコード全体

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 char decode(char);
5
6 int main(){
7     char c;
8     printf("--decryption?--\n");
9     while((c = getchar())!= EOF)
10         putchar(decode(c));
11     return(0);
12 }
13
14
15 char decode(char rot){
16     if ('A' <= rot && rot <= 'M' || 'a' <= rot && rot <= 'm')
17         return(rot + 13);
18     else if('N' <= rot && rot <= 'Z' || 'n' <= rot && rot <= 'z')
19         return(rot - 13);
20     else
21         return( rot );
22 }
23
24 }
```

### 2.2.2 出力結果 ※ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz および

ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ、Va snpg V'z n tvey が、getchar()関数で入力した値である。また、"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
--encryption?--
abcdefghijklmnopqrstuvwxy
zabcdefghijklmnopqrstu
vwxyzabcdefghijklmnop
ghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTU
VWXYZABCDEFGHIJKLMN
OPQRSTUVWXYZABCDEFGHI
JKLM
Va snpg V'z n tvey
In fact I'm a girl
^C
```

### 2.2.3 考察

- 1.1 項、rot13 暗号化プログラムを参考にして、rot13 複合プログラムを制作した。
- 入力されたアルファベットを降順で 13 文字ずらすような出力を得ることができる。
- 'a'と 'z'、'A'と 'Z'は続いているとみなしている。
- rot13 の場合では昇順、降順どちらでずらすとも取る値は同じであるので、rot13 暗号化プログラム(encode()関数)とまったく同じプログラムを使って複合することができる。

### 3. オリジナルの暗号化・復号プログラムを作成せよ。

#### 3.1 rot47 暗号化、複合プログラム

##### 3.1.1 ソースコード全体

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 char encode(char);
5
6 int main(){
7
8     char c;
9     printf("--encryption?rot47--\n");
10    while((c = getchar())!= EOF)
11        putchar(encode(c));
12    return(0);
13 }
14
15
16 char encode(char rot){
17
18     if ('!' <= rot && rot <= 'P')
19         return(rot + 47);
20     else if('Q' <= rot && rot <= '~')
21         return(rot - 47);
22     else
23         return( rot );
24 }
```

3.1.2 出力結果(1) ※ the Answer to the Ultimate Question of Life, the Universe, and Everything = 42 が、getchar()関数で入力した値である。また、"^C"はプログラムを終了するための"Control+C"の入力を示している。

```
--encryption?rot47--
the Answer to the Ultimate Question of Life, the Universe, and Everything = 42
E96 p?DH6C E@ E96 &=E:>2E6 "F6DE:@? @7 {:76[ E96 &?:G6CD6[ 2?5 tG6CJE9:?8 l ca
^C
```

3.1.3 出力結果(2) ※ E96 p?DH6C E@ E96 &=E:>2E6 "F6DE:@? @7 {:76[ E96 &?:G6CD6[ 2?5 tG6CJE9:?8 l ca が、getchar()関数で入力した値である。また、"^C"はプログラムを終了するための"Control+C"の入力を示している。

```
--encryption?rot47--
E96 p?DH6C E@ E96 &=E:>2E6 "F6DE:@? @7 {:76[ E96 &?:G6CD6[ 2?5 tG6CJE9:?8 l ca
the Answer to the Ultimate Question of Life, the Universe, and Everything = 42
^C
```

##### 3.1.4 考察

- rot13 プログラム(2.1 項、2.2 項)を参考にして、rot47 プログラムを作成した。
- アルファベットだけではなく、ASCII コードで表すことのできる図形文字 (%x:21-[!]) から (%x:7e-[~]) の 94 個まで範囲を拡張した。
- 丁度半分の 47 ずらすことで暗号化、複合を同じプログラムで実行することができる。

## 3.2 オリジナルの暗号化、復号プログラム

### 3.2.1 オリジナル暗号化プログラム

#### 3.2.1.1 ソースコード全体

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 char encode(char);
5
6 int main(){
7
8     char c;
9     printf("--encryption?original--\n");
10    while((c = getchar())!= EOF)
11        putchar(encode(c));
12    return(0);
13 }
14
15
16 char encode(char rot){
17
18     if (0 <= rot && rot <= 31)
19         return(rot);
20     else if (32 <= rot && rot <= 50)
21         return(rot + 76);
22     else
23         return(rot - 19);
24 }
```

3.2.1.2 出力結果 ※ the Answer to the Ultimate Question of Life, the Universe, and Everything = 42 が、getchar()関数で入力した値である。また、"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
--encryption?original--
the Answer to the Ultimate Question of Life, the Universe, and Everything = 42
aUR1.[`dR_la\laUR1BYaVZNaR1>br`aV\[1\S19VSRx1aUR1B[VcR_`Rx1N[Q12cR_faUV[T1*1!~
^C
```

#### 3.2.1.3 考察

- オリジナルの暗号化プログラムを作成した。
- rot47 暗号化とは違い、図形文字に空白スペースを含めた 95 個を 19 個の区切りでずらすことで、英単語の区切りを悟られないように工夫した。



## 3.2.2 オリジナル暗号化プログラムの復号プログラム

### 3.2.2.1 ソースコード全体

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 char decode(char);
5
6 int main(){
7
8     char c;
9     printf("--decryption?original--\n");
10    while((c = getchar()) != EOF)
11        putchar(decode(c));
12    return(0);
13 }
14
15
16 char decode(char rot){
17
18     if (0 <= rot && rot <= 31)
19         return(rot);
20     else if (108 <= rot && rot <= 126)
21         return(rot - 76);
22     else
23         return(rot + 19);
24 }
```

### 3.2.2.2 出力結果 ※ aURl.[`dR\_la\laURIBYaVZNaRl>bR`aV\

[|\S19VSRxlaURIB[VcR\_`Rx1N[Q12cR\_faUV[T1\*!~ が、getchar()関数で入力した値である。また、"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
--decryption?original--
aURl.[`dR_la\laURIBYaVZNaRl>bR`aV\[|\S19VSRxlaURIB[VcR_`Rx1N[Q12cR_faUV[T1*!~
the Answer to the Ultimate Question of Life, the Universe, and Everything = 42
^C
```

### 3.2.2.3 考察

- 3.2.1 項のオリジナル暗号化プログラムを複合するプログラムを作成した。

### 3.3 rot47 プログラムとオリジナルプログラムの統合

#### 3.3.1 暗号化プログラム

##### 3.3.1.1 ソースコード全体

---プログラムファイル本体(report@4-3-3.c)

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 char rot47(char);
5 char encode(char);
6
7 int main(){
8
9     char c;
10    printf("--encryption?rot47+original--\n");
11    while((c = getchar())!= EOF)
12        putchar(encode(rot47(c)));
13    return(0);
14 }
```

---rot47 プログラムファイル(rot47.c)

```
1 char rot47(char rot){
2
3     if (33 <= rot && rot <= 80)
4         return(rot + 47);
5     else if(81 <= rot && rot <= 126)
6         return(rot - 47);
7     else
8         return( rot );
9 }
```

---オリジナル暗号化プログラムファイル(ori-encry.c)

```
1 char encode(char c){
2
3     if (0 <= c && c <= 31)
4         return(c);
5     else if (32 <= c && c <= 50)
6         return(c + 76);
7     else
8         return(c - 19);
9 }
```

---Makefile ファイル(Makefile-encry)

```
1 #
2 #Report04
3 # iii 項のコンパイル、実行のための Makefile
4 #暗号化プログラム
5 #
6
7 ccencry:report@4-3-3.o rot47.o ori-encry.o
8     gcc -o encry report@4-3-3.o rot47.o ori-encry.o
9
10 encry:report@4-3-3.c
11     gcc -c report@4-3-3.c
12
13 rot47.o:rot47.c
14     gcc -c rot47.c
15
16 oriencry:ori-encry.c
17     gcc -c ori-encry.c
```

3.3.1.2 出力結果 ※ the Answer to the Ultimate Question of Life, the Universe, and Everything = 42 が、getchar()関数で入力した値である。また、"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
--encryption?rot47+original--
the Answer to the Ultimate Question of Life, the Universe, and Everything = 42
2&#1],15#012-12&#1r*2'+~2#ln3#12'-,l-$lh'$#H12&#1r,'4#01#H1~, "la4#072&',%1Y1PN
^C
```

### 3.3.1.3 考察

- ・今までに制作した rot47 暗号化プログラム、オリジナル暗号化プログラムを同時に行うプログラムを作成した.
- ・暗号化プログラムは変更が容易になるようにプログラムファイルを分割し、Makefile によってコンパイル・実行できるようにした.

### 3.3.2 復号プログラム

#### 3.3.2.1 ソースコード全体

---プログラムファイル本体(report@4-3-3b.c)

```
1 #include <stdio.h>
2 #include <ctype.h>
3
4 char rot47(char);
5 char decode(char);
6
7 int main(){
8
9     char c;
10    printf("--decryption?rot47+original--\n");
11    while((c = getchar())!= EOF)
12        putchar(rot47(decode(c)));
13    return(0);
14 }
```

---rot47 プログラムファイル(rot47.c)

```
1 char rot47(char rot){
2
3     if (33 <= rot && rot <= 80)
4         return(rot + 47);
5     else if(81 <= rot && rot <= 126)
6         return(rot - 47);
7     else
8         return( rot );
9 }
```

---オリジナル復号プログラムファイル(ori-decry.c)

```
1 char decode(char c){
2
3     if (0 <= c && c <= 31)
4         return(c);
5     else if (108 <= c && c <= 126)
6         return(c - 76);
7     else
8         return(c + 19);
9 }
```

---Makefile ファイル(Makefile-decry)

```
1 #
2 #Report@4
3 # iii 項のコンパイル、実行のための Makefile
4 #復号プログラム
5 #
6
7 ccdecry:report@4-3-3b.o rot47.o ori-decry.o
8     gcc -o decry report@4-3-3b.o rot47.o ori-decry.o
9
10 decry:report@4-3-3b.c
11     gcc -c report@4-3-3b.c
12
13 rot47.o:rot47.c
14     gcc -c rot47.c
15
16 oridecry:ori-decry.c
17     gcc -c ori-decry.c
```

3.3.2.2 出力結果 ※ 2&#1],15#012-12&#1r\*2'+~2#ln3#12'-,l-\$lh'\$#H12&#1r,'4#01#H1~, "la4#072&',%1Y1PNが、getchar()関数で入力した値である。また、 "^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
--decryption?rot47+original--
2&#1],15#012-12&#1r*2'+~2#ln3#12'-,l-$lh'$#H12&#1r,'4#01#H1~, "la4#072&',%1Y1PN
the Answer to the Ultimate Question of Life, the Universe, and Everything = 42
^C
```

### 3.3.2.3 考察

- a) 3.3.1 項の暗号化プログラムの復号プログラムを作成した。
- b) 同じように Makefile を用いてコンパイル・実行できるようにした。

### 3.3.3 暗号化、復号プログラムのモード切り替え

3.3.3.1 ソースコード全体 ※ rot47.c、ori-encry.c、ori-decry.c については iii-1 項、iii-2 項における同名ファイルと同一。

---プログラムファイル本体(report@4-3-3b.c)

```
1  #include <stdio.h>
2  #include <ctype.h>
3
4  char rot47(char);
5  char encode(char);
6  char decode(char);
7
8  int main(){
9
10     char c;
11     int i;
12     printf("encryption = 0, decryption = 1\n");
13     printf("===>");
14     scanf("%d",&i);
15     if(i==0){
16         printf("\n--encryption?rot47+original--");
17         while((c = getchar())!= EOF)
18             putchar(encode(rot47(c)));
19     }
20     else if(i==1){
21         printf("\n--decryption?rot47+original--");
22         while((c = getchar())!= EOF)
23             putchar(rot47(decode(c)));
24     }
25     else
26         printf("ERROR!\n");
27     return(0);
28 }
```

---Makefile ファイル(Makefile-de,en)

```
1  #
2  #Report@4
3  # iii 項のコンパイル、実行のための Makefile
4  #暗号化、複合プログラムのモード切り替え
5  #
6
7  ccencry:report@4-3-3c.o rot47.o ori-encry.o ori-decry.o
8      gcc -o de-encry report@4-3-3c.o rot47.o ori-encry.o ori-decry.o
9
10 encry:report@4-3-3c.c
11     gcc -c report@4-3-3c.c
12
13 rot47.o:rot47.c
14     gcc -c rot47.c
15
16 oriencry:ori-encry.c
17     gcc -c ori-encry.c
18
19 oridecry:ori-decry.c
20     gcc -c ori-decry.c
```

3.3.3.2 出力結果(1) ※変数 i には 0 を格納、abcdefgEFGHIZk が getchar()関数で入力した値である。また、"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
encryption = 0, decryption = 1
==>0

--encryption?rot47+original--
abcdefgEFGHIZk
~ !"#%$abcdew)
^C
```

3.3.3.3 出力結果(2) ※変数 i には 1 を格納、~ !"#%\$abcdew)が getchar()関数で入力した値である。また、"^C"はプログラムを終了するための "Control+C"の入力を示している。

```
encryption = 0, decryption = 1
==>1

--decryption?rot47+original--
~ !"#%$abcdew)
abcdefgEFGHIZk
^C
```

#### 3.3.3.4 考察

- a) rot47 プログラム、オリジナルプログラムの統合し、さらに暗号化、複合プログラムを統合し if 文により暗号化モードと複合モードを切り替えできるようにした。

--あとがき--

#### a)参考文献

- ・ 『C 実践プログラミング 第三版』